開発教育ファシリテーションの 9 要素

(1)ファシリテーションの9要素

ファシリテーションを支える理念

公正・共生を理念とする持続可能な社会の実現 わたしが変わり社会を変える~自己変容と社会変革 人間の尊厳を守り、多様性を理解・尊重する

学習者へ働きかける視点

グローバル・ローカルの開発問題を構造的に理解する 価値観や思考の枠組みを問い直し、偏見・固定観念に気づく 答えのある学びから答えをつくる学びへの転換 開発問題とわたしたちのつながりに気づき、社会参加をする 学習者同士が互いに学び合い、議論する

共に学びを創る人として

ファシリテーター自身が学び続ける姿勢を持ち、学習者とともに学びを創る

(2) 学習者の学びを引き出すファシリテーションスキル

ファシリテーション スキル	学習者のどんな学びを引き出すのか?	根拠になる概念
聴く	相手の伝えようとしている意図や意味を受け止め、かき消される声を取り出す <解説 > 傾聴やパラフレーズを使って「聴く」ことで学習者が安心して話すことができるようにする。相手の枠組みで聴くことによって自分の理解とのズレを確認し相互理解を深める。相手の気持ちや感情に焦点をあてることで、その背景にある価値観や考え方に気づく。	学習者主体 声なき声を聴く 共感的理解
観る(観察する)	学習者のコミュニケーションの癖や思考の枠組みの傾向を把握する <解説 > 学習者の学習プロセスへの参加の仕方をよく観て、コミュニケーションの癖や思考の枠組みの傾向を把握し、グループ内で相互にどのように影響を与え合っているかを観る。そしてそれをフィードバックするところまでを行う。 複数のグループでのディスカッションの場合、記録係として置くこともできる。	参加・参画 市民参加 社会参加 参加型開発 学びへの参加

問う	社会課題・開発問題を多方面から検証し、既存の社会 通念や自分の考え方、価値観を批判的に吟味する	開発観(人間開発・社会開発・内発的発展・持続可能な開発)
	開発教育の出発点は、開発のあり方を問うことである。開発問題や 社会のさまざまな課題を批判的に問い、課題解決に向けて合意形成 を行っていく過程で、「さまざまな意見があっていいよね」では終	公正・共生 構造的理解 相手の立場を考
	わらせない、私たちの「ありたい未来」を実現させるための学びを 深めるために問う。何のために問うているかを問うことは大切であ る。	える 批判的思考 社会変革 自己変容
焦点をあてる	社会課題・開発問題と自分とのつながりを実感するポイントに焦点をあてて、学びを深める契機とする < 解説 >	テーマを学ぶこ とに終わらず自 分ごととして捉 える
	学習者の発言で、どこに意識を向け注目するかは難しいスキルであるが、開発教育では、開発問題をテーマへの知的理解にとどまらず、 自分とのつながりを感じることで自分事の問題としていくことが、	7.2
	学びの中で重要だと考えている。)
「想定外」を学習 素材にする	ファシリテーションの最中に想定していなかった意見 が出てきたら、新たな学びの機会と捉えて学習者と一 緒に考えてみる	学習者主体 あらゆる機会を 学びにつなげる
	<解説> 学習活動の準備の中で、あるいはこれまでのファシリテーション経験の中で、想定していなかった意見が学習者から出てきた場合は、学習の良い契機だと捉え、学習活動の予定を調整して一緒に考えることで学びの可能性を開くことができる。多くの場合反対意見であったり、枠組みを問い直すような根本的な疑問であったりするので、なぜそう思うのか、他の人はどう思うか、など皆で吟味する。	
手助けする	意見を整理し語ることを手助けする	援助・支援
	<解説> 発言の意図や背景を質問したり、言い換えなどで学習者が自分の考えを整理するプロセスを手助けする 学習者同士が、お互いを尊重し合い、対話と議論ができるように支援する。	
エンパワーする	もっと学びたい、参加したいと思える	エンパワーメン ト
	<解説>「何かしたいがわからない」という段階から、知り、考え、学ぶことを通して「もっと知りたい」「何かやってみたい」「何かできるかもしれない」という気持ちが持てるように学びを力につなげていく。	自己肯定感 自己効力感 アクション
ふりかえる (省 察)	学習者が気づきを通して価値観がゆさぶられた体験を 言葉化する	省察 自己変容
	<解説> 学習活動のプロセスでの気づき、学びをふりかえり、学びの意味を 吟味することを促す。学びの経験を言葉化することを助ける。	